

平成24年度 学校教育計画 年度末評価

教育理念	私たちは、常に新しい知識を希求する。そのため、日々の活動をとおして自己を研鑽し校風の発揚に努めることを決意し、次の事項を教育理念とする。 ー 真理の探究 ー 自他の敬愛 ー 責任の完遂		
学校教育目標	現代社会における情報化・国際化の進展や産業技術の発展をふまえ、生涯にわたる人間形成の基礎を培うため、多くの科目を開設して生徒の個性を伸長させるとともに、将来の職業選択を視野に入れた進路への自覚を深めさせ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な人材を育成する。		
実践目標	”集団の教育からマンツーマンの教育へ” 生徒の興味・関心、能力・適性および進路等にきめ細かく対応し、マンツーマン指導をベースにした教育支援体制により、生徒個々の希望する進路実現を目指す。		
中期目標	① あらゆる学力(生きる力)の伸長を図る学校づくり ② 様々な場面で基礎的・汎用的能力を育成する学校づくり ③ ライフプランを確立・支援できる学校づくり ④ 第一希望進路実現達成率の高い学校づくり ⑤ 地域から信頼される学校づくり ⑥ 調和のとれた学校づくり ⑦ 組織的・有機的に運営される学校づくり	総合評価	各部署よりの評価の集約は、評価A 72.3% (昨年比-9.9%) 評価B 27.7% (昨年比+9.9%) 評価C 0% (昨年比±0%)であった。昨年度に比べ、評価Aの数値は減少したが、各部署の当初目標はおおむね達成できた。評価A減少の原因など次年度に向けての課題を各部署で十分検討の上、いっそうの改善・向上に努めたい。生徒による授業評価アンケートの満足度は96.9%であった。

部署別重点目標

部署	重点目標	方策	到達目標 および 評価の観点	評価	成果と課題(改善策・向上策)
教務	1 総合学科及び塩尻志学館高校の魅力の中学生・保護者・地域に積極的にアピールし、志願者を増やすことにより、将来の進路に対して、明確な目的意識を持ち、個性豊かで意欲に満ちた生徒を多数集め、本校総合学科のさらなる発展を目指す。	・ 公開授業および体験入学の充実 原則的に毎日。特に年2回、土曜日に実施するものについては広報する。 夏休み中の土曜日に実施。魅力あるものにする。	① 公開授業、体験入学、学校説明会の参加者数の増加 公開授業…150人 体験入学…650人 学校説明会…430人	B	① 参加者数が増加。 アンケート結果も高い評価 公開授業…182人←158人(H23) 体験入学…727人←686人(H23) 学校説明会…379人←434人(H23)
		・ 中学校訪問の充実 中南信地区(7、8、10、11、12区)の中学生・保護者・中学校教職員に対し、本校総合学科の特色やその魅力、求める生徒像、入試システムの周知徹底を図る。特に、近隣の中学校(塩尻市内及びその周辺)に対しては、前期(総合学科の特色・魅力)と後期(入試システム)の2回に分けて説明を行う。その中で、卒業生の様子についても各中学校毎に具体的な実績を知らせ、本校の魅力を理解してもらおう。以上のような取り組みを多くの職員でおこなう。	② 中学校訪問回数、中学校訪問職員の増加 中学校訪問回数…24回 中学校訪問職員…実数14人	A	② 中学校訪問回数増加 中学校訪問職員は下回っている。 生徒が出身中学校へ行くこともあった。 中学校訪問回数…32回 中学校訪問職員…実数13人+生徒1人
		・ Webサイトの活用による積極的なアピール 学習成果、部活動・生徒会活動など、日々の様子や成果をタイムリーに発信する。 ブログの活用。 進路実績の他、卒業後の様子なども可能な範囲で発信する。	③ Webサイト閲覧数について Webサイト閲覧数…35,000hit ブログ閲覧数…41,000hit	A	③ 適時に更新ができています。 ブログもほぼ毎日更新している。 2月19日現在のWebサイト閲覧数について Webサイト閲覧数…39467hit ブログ閲覧数…36282hit
		・ マスメディア(地域新聞、地域広報等)の活用による積極的なアピール	④ 取材数の増加	B	④ 昨年度は100周年記念の年であった。
		・ 入学者選抜方法を改善し、その内容を中学校に周知・徹底	⑤ 志願者数について ー 具体的数値目標 前期選抜：2.0倍 後期選抜：1.2倍	A	⑤ 志願者数について ー 具体的数値目標 前期選抜：2.23倍 後期選抜：1.36倍
	2 効率的な業務推進・学校運営を研究する。	・ 実践・研究を重ね、より効率的なシステムの構築と運用をめざす	①職員会議時間の短縮 ②諸行事・諸会合の時間短縮	A	① 終了時間が早まった。

部署別重点目標

部署	重点目標	方策	到達目標 および 評価の観点	評価	成果と課題（改善策・向上策）
進路指導	1 従来の学年・進路指導部による進路指導に加えて、系列による指導の体系化・組織化を図る。	・進路検討会で組上に載せられた生徒について系列別に分類した資料を作成し、本人の志望校に対する系列としての見解や今後の指導方針、本人に対するアドバイス等を系列ごとにまとめ、指導のための手だてとする。また、教科会等の場で指導のための情報交換をお願いする。	①生徒一人一人の希望進路実現の支援を図り、卒業時アンケートにおける質問項目「進路希望が実現できた」に対する回答として、「あてはまる・だいたいあてはまる」8割以上を目標とする。	A	・各系列の職員の協力を得て、3学年生徒の進路指導用の資料を作成することができた。推薦入試の指導においても各系列の職員に指導をお願いし、国公立大学の推薦入試においては、6名（信州大学5名）合格の実績を残すことができた。しかしながら医療系・看護系・栄養系の推薦入試においては苦戦しており、早期からの意識付けと基礎学力の充実が必要である。
	2 2コミュニケーション能力と基礎学力のある生徒の育成を図る	・面接指導と補習授業（桔梗塾を含む）の内容を充実させ ・面接指導においては、進路指導部や学年の職員だけでなく、系列の職員の専門性を活かした指導もできるだけお願いする。	②補習授業（桔梗塾を含む）の出席率の増加 ③面接指導の組織化と実施回数の増加 ④進路実績の向上	B	・夏休みの補習については、高校総体の関係で手薄になってしまった学年もあったが、2年生8名が総合学科合同の学習合宿に参加し意欲的に学習を行った。桔梗塾については後半に出席率が低下してしまい、生徒に対する意識付けや補習の内容についても改善が必要である。面接指導においては各系列の専門性を活かした指導をしていただき、進学・就職共に良い結果を残すことができた。
	3 進路実現に向けて自ら積極的に行動できる生徒の育成を図る	・上級学校のオープンキャンパスや学校説明会、企業訪問等に積極的に参加するよう促すことにより、生徒が自らの手で情報を入手し進路研究を進める支援をしたい。			A
生徒支援	1 頭髪・服装・遅刻指導および授業規律の確立	・全職員の意識統一により、日々生徒への声かけをする。 ・生徒会興風委員会と連携し、生徒からも呼びかける。 ・PTA総会、学年PTAなどで保護者への理解を得る。	①染毛している生徒の減少 ②遅刻生徒の減少	A	①年間計画により校風検査を実施した結果、ほとんどの生徒が問題の無い服装頭髪であった。違反者は学年で根気良く対応して改善。
	2 マナー・ルールの遵守	・授業やHRを通して生徒の意識を高めるようにする。 ・携帯電話の使用についてルールを守れるようにする。	①授業時の携帯使用ゼロ ②挨拶の励行	B	①携帯についてはごく一部にスマホの使用が見られた。来年度の課題としたい。
総合学科推進	1 キャリア教育の充実 ① 3年間の有機的なキャリア教育プログラムの作成と実施 ② 就業体験学習（1学年）、平和学習（2学年）の導入	・3年間の体系的な教育計画に基づく、各学年の効果的な指導の ・職員研修の実施 ・今年度より導入する「就業体験学習」「平和学習」の準備と効果的な学習内容の研究と実施	①各学年で体系的な運営ができたか。 ②職員研修が実施できたか。 ③1学年の全ての生徒が就業体験に参加できたか。 ④学習の成果について生徒・職員にアンケートを実施し検証する。	A	①年間計画に基づき実施中できた。計画の細部については変更もあるが、3年間の継続性を意識して実施した。 ②11月14日民間企業の方を講師として、職員キャリア教育研修会を実施。 ③当初計画237名中236名が実施できた。 ④就業体験については「有意義であった」の生徒回答が93%であった。
	2 科目選択の充実 ① 個々の生徒が、より自己にとって適切な科目選択ができるような指導体制の構築 ② 学年の枠を超えた実践の交流	・それぞれの生徒に対して、担任・教科（系列）・作業委員会・進路担当等、複数の職員による指導・チェックができるように、体制を組む。 ・必要な科目がもれなく選択できるような配置表の作成 ・科目選択交流会の実施 ・科目選択交流会の実施時期の改善と、準備および運営方法の改善	⑤複数の段階的なチェックが実施できたか。 ⑥職員間での十分な検討ができたか。 ⑦実施時期、形態は適切であった（実施後の職員反省から判断する） ⑧生徒の満足度はどうか。（実施後の生徒の感想から判断する）	B A	⑤生徒の希望について、複数のチェックができるようなシステムを整え実施を依頼したが、一部チェック漏れも見られた。 ⑥教科会・教育課程委員会等での審議を受け、科目選択作業を実施したが、第4回科目選択は大幅に日程が遅れた。 ⑦形態については、今年度変更があったが概ね問題はなかった。実施時期については、「第2回科目選択の前に」という意見が複数見られた。検討事項である。 ⑧生徒の感想からは、参加についての満足度の高さが示されていた。
	3 主体的な学びと基礎的・汎用的能力の育成	・キャリア教育のそれぞれ単元における、基礎的・汎用的能力育成を目標とした取り組み。 ・授業をはじめとする学校生活全般における取り組みの促進。 ・発表会などを通じて、主体的に学ぶ場を設定する。	⑨まとめ、発表、討議などの機会を設けることができたか。 ⑩各部署における明確な目標化と評価を実施できたか。 ⑪生徒の自己評価をもとに学習への取り組みを検証する。	A	⑨各単元において、様々な機会を設け学習を実施中できた。 ⑩全ての部署ではないが、学校教育計画の重点目標化された。 ⑪学習のワークシートに自己評価欄を設け各自の取り組みについて自己評価を実施した。

部署別重点目標

部署	重点目標	方策	到達目標 および 評価の観点	評価	成果と課題（改善策・向上策）
生徒会	1 校歌を誇りを持って歌い、大きな声で気持ちよく挨拶ができ全校生徒が志学館生として「自覚」を持ちお互いに「絆」を感じる校風を築く。	<ul style="list-style-type: none"> ・二百周年に向けて新しい伝統を創る取り組みをする。 ・学校に対する評価を全校生徒が共有できる取り組みをする。 ・全員が大きな声で校歌を歌い、挨拶ができ志学館生としての自覚を持たせる。 	① 学校生活の中で、生徒会本部会、委員会、クラブ、地域活動等で各生徒の充実感や達成感を高める。 ② 集会、壮行会等で全員が大きな声で校歌を歌い、挨拶等ができ志学館生としての自覚が持てる。	A	① 本部役員が日々の活動や各行事も非常によくなっていた。生徒もさまざまな場面で活動、活躍し充実感、達成感を高めた。 ② 校内では大きな声で気持ちよく挨拶ができるようになってきている。校歌については徐々に大きな声で歌えるようになってきた。来年度以降も継続していきたい。
	1 調べ学習資料の充実を図り、利用しやすい環境を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な図書・資料の提供にも力を入れることで、調べ学習を援助。 	① 図書館利用者数、利用時間数、レファレンス数、貸し出し数など。	B	(成果)：重点目標の3, 4, 5, 6, 7, についてはほぼ目標を達成した。図書館教養講座は前期に2回後期に3回行った。参加した生徒と講師の座談会や感想文から生徒と講師との良い関係が築けたと感じた。
図書視聴覚	2 生徒の好奇心・読書意欲を喚起させ検索方法の指導も行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習に必要な本だけでなく魅力的な本購入とPRに努める ・ことで読書に親しむ機会を作る。 	② 資料の配置や検索方法などが分かりやすくなっているか。	A	(課題)：重点目標の1, 2については、本年度から総合学科推進部が立案、運営することとなった。また、次年度からの組織変更に伴う過程は今後注視していくこととする。図書館教養講座は外部講師派遣の予算が年度始めに足りなかったため図書委員会予算からやりくりしたが、次年度の予算配分には期待したい。また芸術鑑賞は来年度から県の助成金がなくなる可能性もあり今後の運営が心配される。
	3 図書委員会活動の支援。	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館だより」などを通して読書の楽しさを伝え、図書館利用も促進させる。 	③ 外部諸機関との連携や、授業担当者との連携がうまくいったか。		
	4 授業担当者との連携。	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館教養講座」を開催し、興味、知識、感動の裾野を広げ、将来に向けての夢や希望に力を与えられる機会を提供す 	④ 職員への利用状況アンケートの実施と次年度整備計画の立案。	A	
	5 広報活動の充実。	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞事業における事前事後指導の充実。 	⑤ 事後指導での鑑賞アンケート・感想文による実施内容の分析。		
	6 視聴覚教材（機材）の授業への活用を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚室の施設・設備のメンテナンス、および視聴覚機材の更新。 			
7 芸術鑑賞事業の計画・運営を通して視聴覚教育の充実を図る。					
保健厚生	1 校舎内外の清掃・美化	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別の徹底と減量化の推進 	① 燃えるゴミの分別、生徒職員への周知徹底と減量化	B	① 燃えるゴミと燃えないゴミの分別については、良好な状態。年中綺麗にならない清掃箇所があるのが課題。
	2 検診のスムーズな運営性教育・薬物教育を通じて生きる力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会・職員との協力による検診のスムーズ化 ・外部講師により、1学年で薬物教育、2学年で性教育を行う。 	② 保健委員会・職員の協力体制外部講師の活用	A	② 委員会生徒の働きぶりや職員の協力体制がよく、円滑に進んだ。
	3 職員厚生の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・前期中間テストの午後、運動大会をおこない、職員同士で運動不足解消とコミュニケーションを図る。 	③ ストレスの軽減とリフレッシュ	A	③ 計画から実行までスムーズに進み、職員の厚生に寄与できた。
渉外	1 学年・学級PTAの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・学級PTAを開催する。 ・授業参観や講演会を企画する。 	① 学年・学級PTAや授業参観・講演会の参加者数や参加者の満足度はどうか。	A	・3学年が講演会を実施した。2学年が救急救命講習会に34名参加した。寄せ植え研修会に62名（昨年度32名）参加した。
	2 保護者との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA研修やPTA研修旅行を充実する。 ・PTA通信を月1回発行する。 	② 研修参加者数や参加者の満足度はどうか。	A	・強歩大会の豚汁お手伝いに前夜の仕込みに31名（昨年度21名）、当日は35名（昨年度35名）参加され精力的に活動した。
	3 同窓会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会活動への協力 ・大会出場生徒（北信越大会以上）への活動助成 	③ 同窓会の活動が円滑に行われたか。		
1 学年	1 家庭との連携を基に基本的な生活習慣を確立し、基礎学力の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と家庭との意思の疎通に努める。 ・挨拶・清掃を通じて積極的に生徒にかかわり、相談しやすい雰囲気を作る。 ・模試や補習授業を充実させる。 	① 学年通信の発行 ② 各種検定の受験 ③ 生活リズムの確立 ④ 学習習慣の確立	A	① クラス通信・学年通信ともに発行はできた。ただし、回数・発行のタイミングなど検討していく必要がある。③ 高校生としての生活リズムは身につくつがあるが、模試や資格試験についてはさらに意識を高めていく必要がある。④ 支援部との連会を通じ、相談も円滑に行うことができた。
2 学年	1 学習習慣の確立と基礎学力の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごと課題を出し、家庭での学習時間を確保する。 ・各教科で、小テストを実施するなど学力の定着を図る。 	① 定期考査や校外模試での到達度の向上	A	・模擬試験における過去の年度との比較で向上が認められた。
	2 希望進路実現への取り組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・科目選択などの機会に、積極的に教員に相談するよう促す。 ・各種検定試験の受検を勧める。 	② 進路希望に沿った科目選択 ③ 検定試験等の受検人数増加	A	・十分に時間をかけた科目選択が出来た。各種検定試験にも積極的に取り組む生徒が増えた。
	3 「平和学習」の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「平和」について考え、学ぶ機会を、CP・LHRに取り入れるとともに、各教科とも連携しながら研修旅行に向けた事前学 	④ 平和・人権意識の向上	A	・研修旅行に向けて、講演会・学習に取り組み、特に平和に関する意識が向上し

部署別重点目標

部署	重点目標	方策	到達目標 および 評価の観点	評価	成果と課題（改善策・向上策）
3 学年	1 本校の最上級生としての自覚を持たせ、総合学科生としての強みを発揮しながら卒業までの毎日が充実したものとなるように指導する。	・挨拶・マナー指導や長所・成長の気付きの伝達などをはじめ、学校生活全般において個々の生徒を共感的にサポートする。特に、進路の実現のために必要な学力・マナー等を身に付けさせる。	① 卒業生アンケートにおいて、「(ほぼ満足を含めた)満足度」95%以上を目指す。	B	・満足度は94、3%であった。最後の一般入試の受験者に対する指導が行き届かず、この点に関して満足できなかったという回答が目立った。
4 学年	1 自らを見つめ、自身の課題や希望に積極的に挑戦する姿勢の育成	・繰り返しの面談を行い学習意欲の向上に努め、多くの先生との関わりの中で基本的生活習慣の改善により、充実した学校生活をしっかり送らせる。	① 遅刻、欠席をなくし出来るだけ多くの単位修得を目指す。	B	・前期は目標を持ち生活改善に努める姿勢も見られたが、後期息切れが目立ち遅刻・欠課が増え苦しい状態に追い込まれることもあった。
国語	1 漢字力・語彙力などの基礎力の充実	・各学年において、定期的に漢字や語彙等について小テストを実施する。 ・漢字検定の受検を奨励し、動機付けとする。	① 漢字検定の受検率・合格率のアップ	A	・漢字検定 第1回 受験者49名 合格率34.7% 第2回 受験者32名 合格率40.6% 第3回 受験者62名 受験者、合格率共に昨年を上回った。
	2 「聞く力」「書く力」の向上	・各教材において、「聞く力」「書く力」を意識した指導を行う。(感想等を書く機会を増やす・内容のまとめ方の演習など) ・「志学の時間」の記事について日々の授業で積極的に取り上げ、積極的に読み、考えることを奨励する。	② 「志学の時間」において、「新聞を読むのに困らない」と各自で実感できる程度の語彙力の体得 ③ スピーチや講演などを聴いて、内容を理解できる力の体得		・「志学の時間」、産社・CP等の授業における取り組みにより、「聞く力」「書く力」を総合的に伸ばすことができた。
	3 自己の課題に基づいて、自ら積極的に行動してゆく力の育成	・小論文・総合研究において、必要に応じて個別に職員に相談に行くことを奨励する。 ・「発言の機会」を多く設定し、「質問の時間」を確保する。	④ 国語科をはじめとして、「各分野の職員にアドヴァイスを受けること」が自らできるようにする。		・小論文・総合研究を始めとして、個々の必要に応じた指導がなされた。
社会	1 都道府県名や県庁所在地、世界の主な国の国名・首都名等の知識を身につけさせる。	・定期テストのみでなく、日常の授業でも小テストを取り入れ、知識の定着を図る。	① 都道府県名、県庁所在地、主な世界の国名と首都名について、1年生全員が基礎的知識として7割以上を得点できるように指導する。	B	・都道府県名、県庁所在地は全員合格したが、国名と首都名のテストでは10名ほどがまだ合格していないため、引き続き指導して、年度内の全員合格を目指す。
	2 新聞に親しませ、社会の動きに注目させる。	・新聞を取らない家庭の生徒も、図書館などを利用して、新聞のレポートを必ず提出させ、コンクールへ出品する準備をさせる。	② 新聞切り抜きコンクールへの1年生全員の参加	A	・新聞切り抜き作品コンクールに全員が出席できた。佳作1名、努力賞28名で多くの者がしっかりと取り組んだ。
数学	1 基礎・基本を確実に定着させ、更に各自の進路希望が実現できるレベルまで学力を伸長させる。	・補習授業の計画的かつ積極的実施 ・計画的な課題の提示、小テスト、単元テスト等の実施 ・1学年における少人数講座編成による授業の実施 ・数学検定の実施 ・新教育課程における内容の研究および精選	① 基礎、基本は定着したか。スタディサポートの経年比較による分析。	B	・2学年に関しては、成績の向上が見られた。1学年は、習熟度別講座により基礎の部分から応用までおおよそ定着させることができた。 ・「集中して積極的に授業に取り組めた」が約92%、「自主的な学習の習慣ができた」が約72%で、授業以外での学習につながる指導の必要性を感じた。
			② 生徒の積極的な活動を促すことが出来たか、「生徒による授業評価」により検証する。		
理科	1 自然科学的な現象に興味・関心を持たせ、それらを解析・分析する能力を身につけさせる。自然現象の不思議さを実験・観察などを通して実感させる。	・単なる知識の伝達ではなく、常に『なぜ?』という観点を生徒に抱かすことができるように心がける。 ・テレビニュース・新聞記事などの身近な題材を積極的に授業に取り入れ、活用することを心がける。	① 「生徒による授業評価」における授業満足の向上。 ② 理系進学生徒の進路希望達成率の向上。	A	・1年生については、今のまま「科学と人間生活」「生物基礎」で良いのか検討が必要と思われる。 ①「生徒による授業評価」は概ね良好であった。更なる工夫を心がけたい。 ②難関大学への合格を成し遂げた生徒もあり、一般入試へ向けて挑戦する生徒もあり、意識の向上が見られた。

部署別重点目標

部署	重点目標	方策	到達目標 および 評価の観点	評価	成果と課題（改善策・向上策）
外国語	1 授業が、生徒間、また生徒・教師間の人間関係を構築する場であるという観点から、コミュニケーション力を養うために音読活動を重点的に行い、その効果的指導について研究・工夫を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒1人1人に、毎日音読をする習慣を確立させる。 3年次卒業までに、相当数の生徒に英語検定準2級レベルまでの実力をつけさせることを目標に、2年次終了までに全員が中学校の既習事項を定着させ、英語検定3級レベルの実力をつけさせることを目指す。 	① 最近の外国語教育においても音読の有用性が取り上げられていることから、これまで以上に授業に取り入れ、英語力の定着を目指す。 ② 教科書内容の定着を目的として、授業内及び家庭学習での音読活動を重視し、音読を中心とした授業形態を保ちながら、生徒1人1人の実力養成を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> 特に1学年ではオーラル要素を多く含んだ活動を取り入れた。来年度の「コミュニケーション英語」への移行を受け、全国的な動向を研究する必要がある。 英語検定の受験者数は、昨年度の49名から69名と大幅に増加した。そのうち、準2級では、2年生以下での合格が目立つ。
芸術	1 芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、豊かな情操を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 少人数の授業の特性を生かした学習内容の工夫。 外部講師の活用 	① 年度末の授業評価の自己評価Bランク以上が81パーセントを目指す。	A	<ul style="list-style-type: none"> 芸術各科目において概ね目標とする課題をクリアできた。各自の技術的な表現能力を磨き、さらにそれを演奏や作品制作において発信する力を身につけることができた。
保健体育	1 新体力テストで全学年で総得点の平均値が50点を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストへの取組みへのアプローチはもちろん、毎回の授業の導入時に体幹トレーニングや持久走などを取り入れ、筋力・体力の向上を目指す。また、体育への取組みが自ら積極的に楽しんで行えることが生涯スポーツを続ける上で大切であると考え、 「体育が好き」「運動するのが好き」といえる生徒が増える指導を続けられるよう、科内でも積極的に指導研修・授業見学を行い、学年末評価で積極的に取組むことが出来たと評価できる生徒を増やす。 	① 新体力テストの男女別学年別の平均値を検証する。	A	<ul style="list-style-type: none"> 1年女子が49点で下回ったがそれ以外は上回る。3年男子は59点、1年次50点ほどだったが、授業や部活動で成長したと考えられる。 どの講座も8割を下回ったことはなかった。講座によっては10割近くの生徒が積極的に取り組んだと答えた。次年度は、体力向上だけでなく、技術向上、戦術の指導にも力を入れていきたい。
	2 学年末評価で「体育授業への積極的な取組みが出来た」と答える生徒が85%を超えることを目指す。		② 年度末評価で授業への取組みがA評価（6段階）の生徒が何%いるか検証する。	A	
家庭	1 生活課題を主体的に解決する能力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な授業を取り入れ、自らの生活により近い視点で、生活者としての力をつける。 	① 家族、衣食住生活、家族経済について、様々な捉え方や選択肢があることを知り、何をどのように選択していくか、自分なりに判断していく力を身につけさせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 各科目において、生活を豊かにするための力をつけられるように体験的な内容を重視した。その結果、自ら工夫をしたり、自分の考えをまとめる力がついた。系列に沿った科目選択を促すことができた。
農業	1 キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 就業体験や資格取得、研究活動を積極的に導入し、職業理解に努める。 	① 参加者数、受験者数がどれくらい増加したか。事後指導の中で成果を確認する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ①前年に比べ、参加者、受験者・合格者ともに増加し、成果が上がっている。進路にも大きくかわるため、今後も積極的に取り組んでいきたい。 ②長期休業中の管理や研究活動等、生徒は主体的に行うことができた。食品製造では、衛生管理に対する気配りができた。 ③小学校、高校、塩尻市、企業等との連携は、計画通り順調に進めることができ、互いに成果を得ることができた。来年度も継続したい。
	2 作物の成長と食品加工への理解	<ul style="list-style-type: none"> 作物の成長や変化を注意深く観察する中で、生命の逞しさ、尊さを実感させる。食品製造において加工の意義や生産管理の理解を深める。また、食べ物のありがたみを実感させる教育を展開する。 	② 日々の観察や管理が主体的に行うことができたか。衛生管理や加工の意義を十分に理解した食品製造が行えたか。	A	
	3 連携事業の推進と強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献、地域連携を目指し、各種連携事業を円滑に進め、組織との連携強化を図る。 	③ 組織と連携して事業を円滑に進められたか。事業を今後も継続できる体制づくりが構築できたか。	A	
商業	1 ビジネス分野での学びと実社会との係わりについて理解を深め、探究心を持って主体的に学ぶ姿勢を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 学んでいることが実社会の中でどのように活用されているか紹介していく。ビジネスに係わる社会事象について取りあげ解説をしていく。科目の専門性を深めるとともに他のビジネス科目の内容も理解する工夫をし、ビジネス分野の学びを深める。 	① 学習を通して自己と社会との関係および自己の将来について考えたか。基礎・基本を習得し、主体的に学びを深めたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ①実社会との係わりをもつ活動や研究が増えた。レザン活動、アイデアコンテスト入賞、塩尻市企画のプログラミング講習会に参加した。 ①検定の合格者数は増加し、合格率も全検定において全国平均を上回る良好な状況にある。意欲的に学ぶ生徒は増加傾向にあり、高度な資格を取得する生徒数が増加した。
	2 知識・技術の向上のためにも、資格取得に積極的に挑戦する姿勢を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心を持ち、意欲的に学ぶ姿勢を育てるよう授業を展開する。補習・模擬試験なども実施して、合格に向けてのサポートをしていく。授業選択者以外にも資格を取得することができるよう、広く資格取得講座を開設する。 	② 資格取得を目指す生徒は増えたか。資格取得学習を通して学力は向上したか。	A	

部署別重点目標

部署	重点目標	方策	到達目標 および 評価の観点	評価	成果と課題（改善策・向上策）
福祉	1 「福祉の心」の育成と向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献の活用、体験を通して「感じる」学習、社会貢献の意義を理解する。 ・ 自分以外の様々な人々に関心を寄せ、相手に対して「傾聴」、「受容」、「共感」（洞察）を理解する心を育てる授業活動 ・ 教員のスキルアップを目指すための授業研究を行う 	① 教科書の内容について理解できたか。 ② 様々な状況の「自分以外の人」についての認識ができるようになり、またどうしていいか、ということについて自主的に考えられるようになったか。	A	①教科書の範囲は大変広範であるが、全般的な福祉分野について理解できたと考える ②外部講師や、交流などを通し、広い視野での活動、考え方を修得した
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 新教育課程（シラバス、科目選択の手引きを含む）の研究 ・ 学習の評価についての研究 	① 平成25年度実施に向け、各教科研究を深め、決定することができたか。 ② 平成25年度実施（努力目標）に向け、各教科（科目）の学習評価の観点を定め、試行することができたか。		
教育課程委員会	1 学力・生きる力を伸ばし、生徒の多様な希望に対応できる教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路希望に必要で興味関心のある科目選択が実現できるように、教育課程の科目の内容の見直しや一部修正・削除等を行う。 	③ ニーズの高い科目を精選することができたか。 ④ 科目選択作業委員会と協力し、生徒の希望達成率を向上させたか。		